St. Luke's International University

公開シンポジウム

地元創成看護学の実装ー教育・研究・社会貢献の循環

市民向け健康情報サービス「るかなび」の実装

聖路加国際大学看護学研究科

射場典子

日本看護科学学会　COI　開示

筆頭者氏名　射場 典子

所属名　聖路加国際大学

- 筆頭演者は日本看護科学学会へのCOI自己申告を完了しています。
演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業・組織および団体等はありません。

本日の内容

- 聖路加健康ナビスポット「るかなび」開設の経緯
- 研究から事業化に向けたプロセス
- 「るかなび」を拠点とした地域連携・社会貢献の現状
- PCCの実践・教育の場としての「るかなび」
- 「るかなび」の強みと今後の課題

るかなび開設の経緯

文部科学省21世紀COEプログラムに採択
市民が主体的に自分たちの健康を自分たちで創る社会をめざし、そのパートナーとしての看護職のあり方であるPeople-Centered Care（市民主導の健康生成を目指すケア；以下、PCC）という新たなケアの形に取り組んだ

市民や当事者が自分で健康を創り守り、医療の主体になるには？

健康に関する市民と医療者の情報量の差を埋めることが不可欠だと考え、市民健康情報サービスの研究事業を開始

2004年5月地域に開かれた健康情報サービス「聖路加健康ナビスポット:るかなび」の開設

LukeNavi
るかなび
Health Navigation Spot
聖路加健康ナビスポット

聖路加の**「るか」**・健康情報をナビゲートする**「なび」**から、**「るかなび」**と名付けた。

るかなびの目標

市民一人一人が、主体的に自分の健康を創り守る社会をめざし、健康情報サービス活動を行う

＜るかなびの役割＞

PCCの理念に基づいて

1．市民のヘルスリテラシー（適切な情報を入手し、理解し、評価し、利用できる力）向上のための健康情報サービス活動
2．市民・地域とつながり地域に根差したサービス活動
3．教育活動
4．研究活動

健康への道しるべを表すイメージキャラクター　ぽるか

イメージキャラクター
「ぽるか」

- 「ぽるか」は、旅人をナビゲートする
  北極星を含む「こぐま座」をイメージした

LukeNavi
るかなび
Health Navigation Spot
聖路加健康ナビスポット

るかなび
聖路加健康ナビスポット

市民一人ひとりにとって健康づくりの**道しるべ**を見つけられる
ような活動を目指している

※商標登録済

基盤となるPeople-Centered Care：PCC とは

市民や当事者が主体となり、
保健医療専門職と
パートナーシップを
組みながら、
個人や地域社会の
健康課題の改善に向けて
取り組むこと

パートナーシップの8つの構成要素

People Centered Care

研究から事業化へ:るかなびの発展

- 2003年4月　看護実践開発研究センター開設
- 2004年1月　市民健康情報サービスの準備委員会発足
- 2004年5月　聖路加看護大学2号館に**“るかなび”開設**
- 2007年4月　市民ボランティア参加
- 2014年4月　聖路加看護大学と聖路加国際病院が法人一体化
  聖路加国際大学研究センターPCC実践開発研究部へと再編成
- 2015年4月　常勤看護師の配置
- 2016年4月　聖路加臨床学術センターへ**“るかなび”移転**
- 2019年4月　国際・地域連携センターPCC開発・地域連携室へと再編成し、現在に至る

【運営資金】

2003－2007年度　文部科学省21世紀COEプログラム「市民主導の健康生成をめざす看護形成拠点」、2008年度以降は事業化が始まるも、2008-2013年度聖路加・テルモ共同研究事業や2013-2015年度文部科学省私立系戦略的研究基盤形成支援事業、2016年度聖路加国際大学教育改革推進事業等の助成で運営されていた。2014年度に大学・病院一体化された翌年より常勤看護師が配置され、移転後は利用者が増え、学内事業として安定化した。

大学で開設する市民への健康情報サービス 実施過程

ステップ1	地域とのつながりを持った市民への健康情報サービススポットの開設準備
ステップ2	市民や地域とのつながりをもった市民への健康情報サービス活動の開始
ステップ3	市民・地域に向けた広報活動の強化
ステップ4	利用者の健康情報ニーズ分析とそれに基づくサービス内容の充実
ステップ5	市民参加による健康情報サービス活動の開始
ステップ6	健康情報サービス活動の評価

「るかなび」を拠点とした地域連携・社会貢献の現状

聖路加国際大学 国際・地域連携センター PCC開発・地域連携室

聖路加国際大学PCC事業

聖路加国際大学

国際・地域連携センター

PCC開発・地域連携室

- 健康支援事業
  地域で暮らす多様な世代にある多様な健康課題をもつ人々を対象とした健康支援プログラム
- 看護相談
  ナースクリニック
  当事者が抱える健康課題、疑問や不安にその領域専門の看護職が寄り添い、解決の道筋を一緒に模索
- 聖路加健康ナビスポット るかなび
- 地域連携事業
  区民カレッジ、妊婦講座
  自治体や企業等との共催事業

St. Luke's International University

るかなび運営メンバーとサービス体制

＜運営メンバー＞

本学教職員：看護教員、看護師、図書館司書、事務員

※毎月**運営会議**を開催（**PCC開発・地域連携室会議**と同時開催）

＜常駐メンバー＞

- **看護師:1～２名**
- **事務員:1名**
- **司書:週1回半日**
- **市民ボランティア1名**

（登録ボランティア10名＋学生）

＜サービス体制＞

- 対象：**誰でも利用可能（一般市民）**
- オープン時間：**平日 9:30～17:00**（測定・相談は16:00）

看護職

司書

市民・サポーター

他の医療職

自治体

企業

事務職

るかなびのサービス内容

- 健康や病気に関する図書の閲覧
- 適切な健康情報を探すサポート
- 健康チェック
  血圧・握力・骨密度・体組成分析
- 健康相談
- 健康講座・ミニコンサート
- 地域連携イベントなど

図書閲覧サービス

約3000冊の闘病記, 医学系図書, パンフレット, 雑誌, 子ども向け絵本などを無料で自由に閲覧できる図書コーナーを公開し、健康や疾病に関する情報の検索をサポートする

看護職

司書

市民・サポーター

健康チェック

看護職

市民・サポーター

骨密度、体組成（筋肉・脂肪量）、握力、血圧測定により、自分の健康状態を把握し、自分の健康生活を振り返る機会を提供する

血圧測定
無料

骨密度測定
500円

握力測定
500円

体組成測定
1000円

St. Luke's International University

健康相談

市民が抱える健康に関する疑問や不安に1対１の対面で看護職が寄り添い、問題解決の道筋をいっしょに模索し、健康情報を提供する

＊専門看護相談は予約制で、特定の専門領域に関する相談に、専門の看護職が対応する

看護職

司書

市民・サポーター

事務職

よろず健康相談 500円

専門看護相談 1000円

市民と一緒に考える
PCC実践：「ナビゲーションモデル」

「市民」と「看護職」の関係を**車の運転手(ドライバー)**と**ナビゲーター**の関係として例え、看護職が主導権(ハンドル)を握らず、市民が求める健康な生活をともに考え支援する

①看護職は、**「助手席」**でナビゲートする

②看護職は、**「市民の行き先」を明確**にする

③看護職は、市民が行き先に向かうための**「方法」**を含めナビゲートする。

高橋恵子(2011). がん患者といっしょに考えるためのコミュニケーション技術, がん看護, 16(4), 483－486

St. Luke's International University

ミニ健康講座・ミニコンサート

健康講座では、健康づくりに役立つ健康情報を提供する
ミニコンサートでは、くつろぎの時間を提供する

毎月1回開催　原則 第3木曜日 12:30～13:10

ミニ健康講座

ミニコンサート

看護職

司書

市民・サポーター

他の医療職

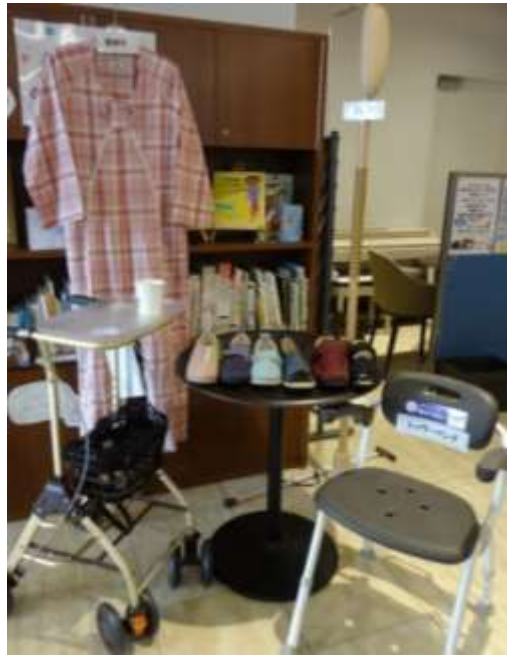
自治体

企業

事務職

健康・介護・福祉用品の展示

健康情報支援の一環として、市民のニーズの高い、健康・介護・福祉用品を展示し、地域で暮らす人が実際に手に触れ、目にすることで、リテラシーを向上する



看護職

市民・サポーター

企業

地域との連携活動

地域のニーズを踏まえ、地域で暮らす子どもから高齢者まで
それぞれの特性に適した健康づくりをナビゲートする

様々な共催イベントの開催をサポート

高齢者通いの場
出張 健康講座

社会福祉協議会
相談会・カフェ

地域の子ども向け
出張 からだのお話会

看護職

司書

市民・サポーター

他の医療職

自治体

企業

事務職

市民ボランティアと共に活動

10名のボランティアが登録し、週1回半日単位で活動
ピンク色のエプロンまたは白いポロシャツを着用

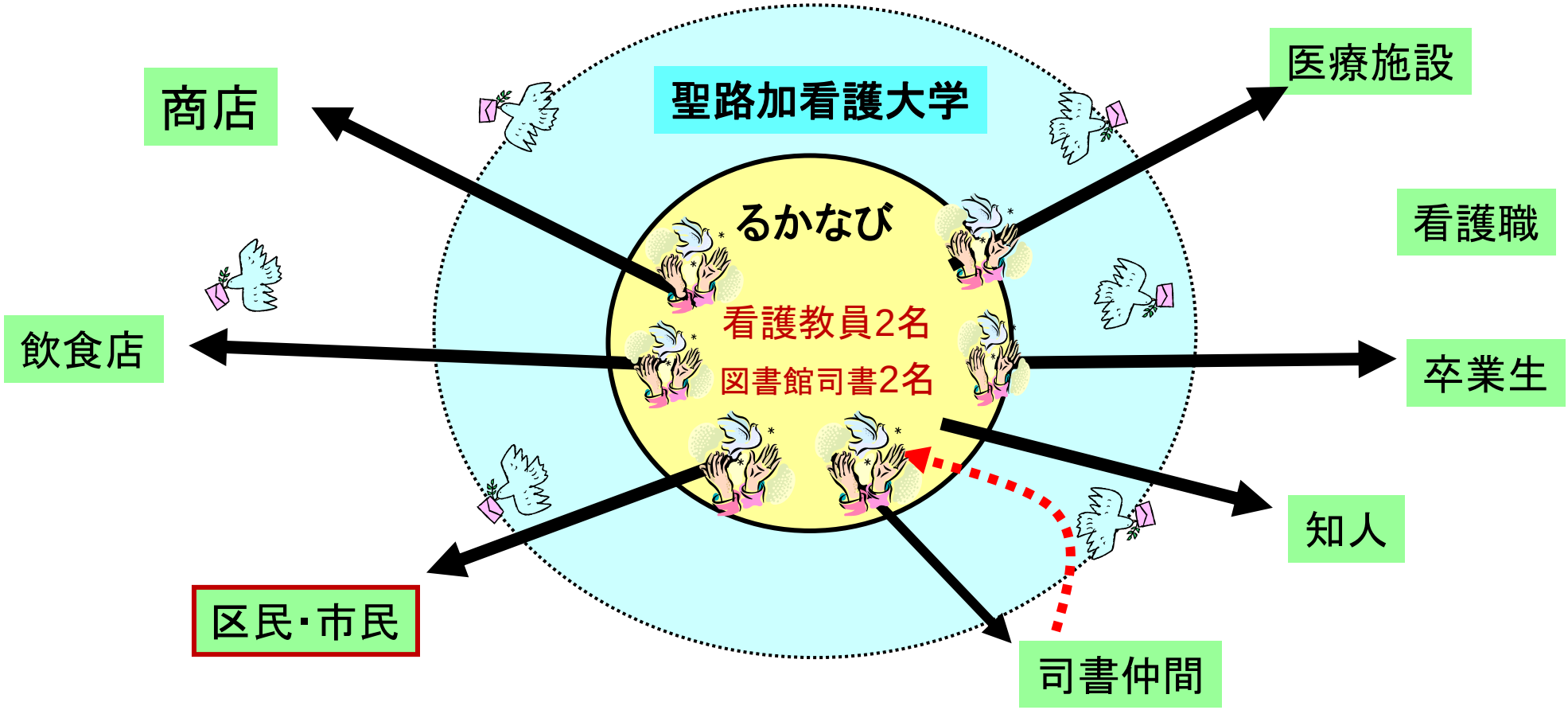
受付・案内、本の整理や検索、健康チェック、展示案内、イベント企画、イベントサポートなどを市民目線で行う
→ **市民のニーズに沿ったサービスを提供**

看護職

司書

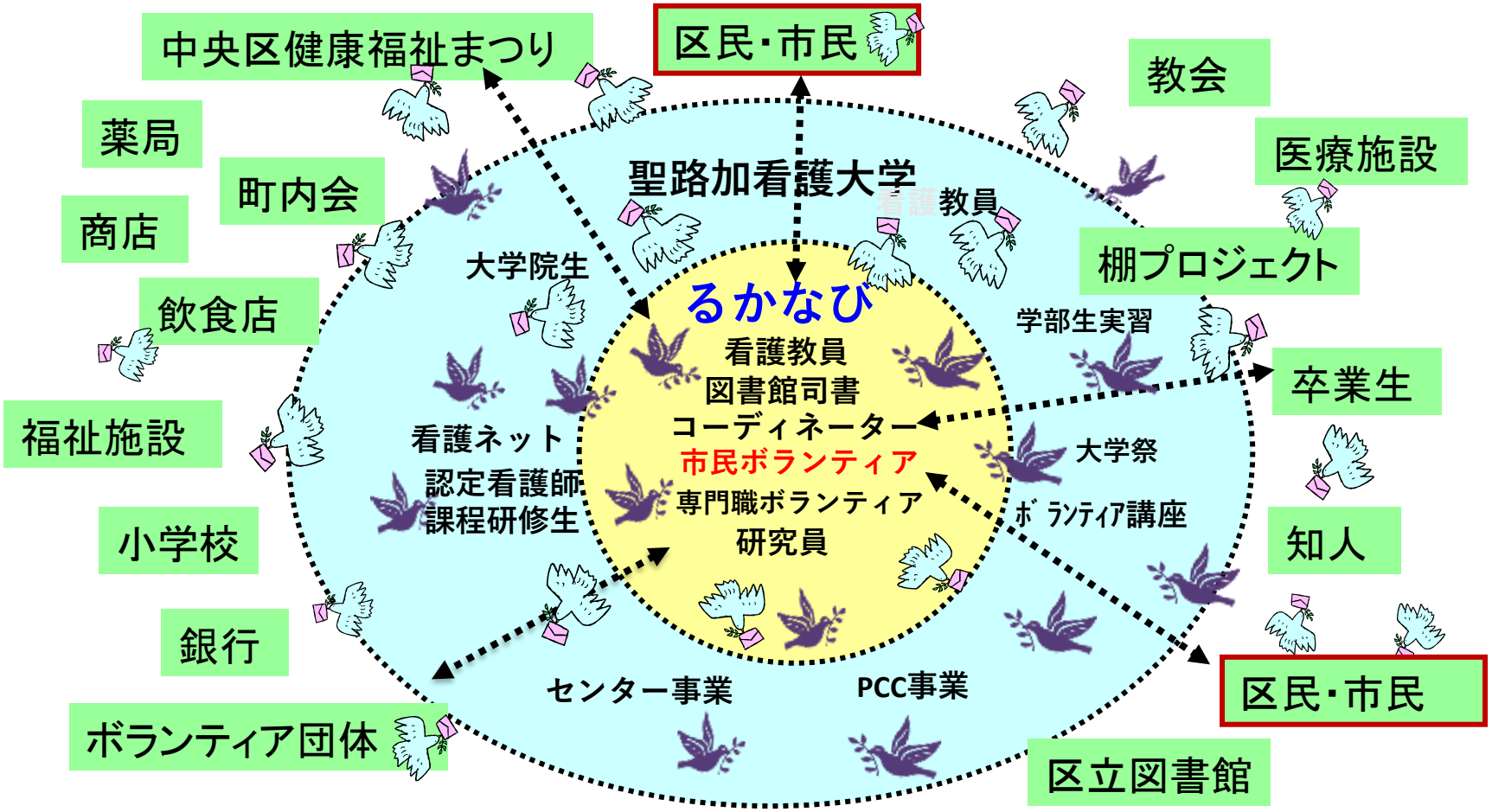
市民・サポーター

開設初年度：るかなびと市民・地域とのつながり（2004年度）



PCCをめざしたるかなびの活動は、看護教員2名と司書2名でスタートし、忍耐強く、広報活動とサービスを続けた。

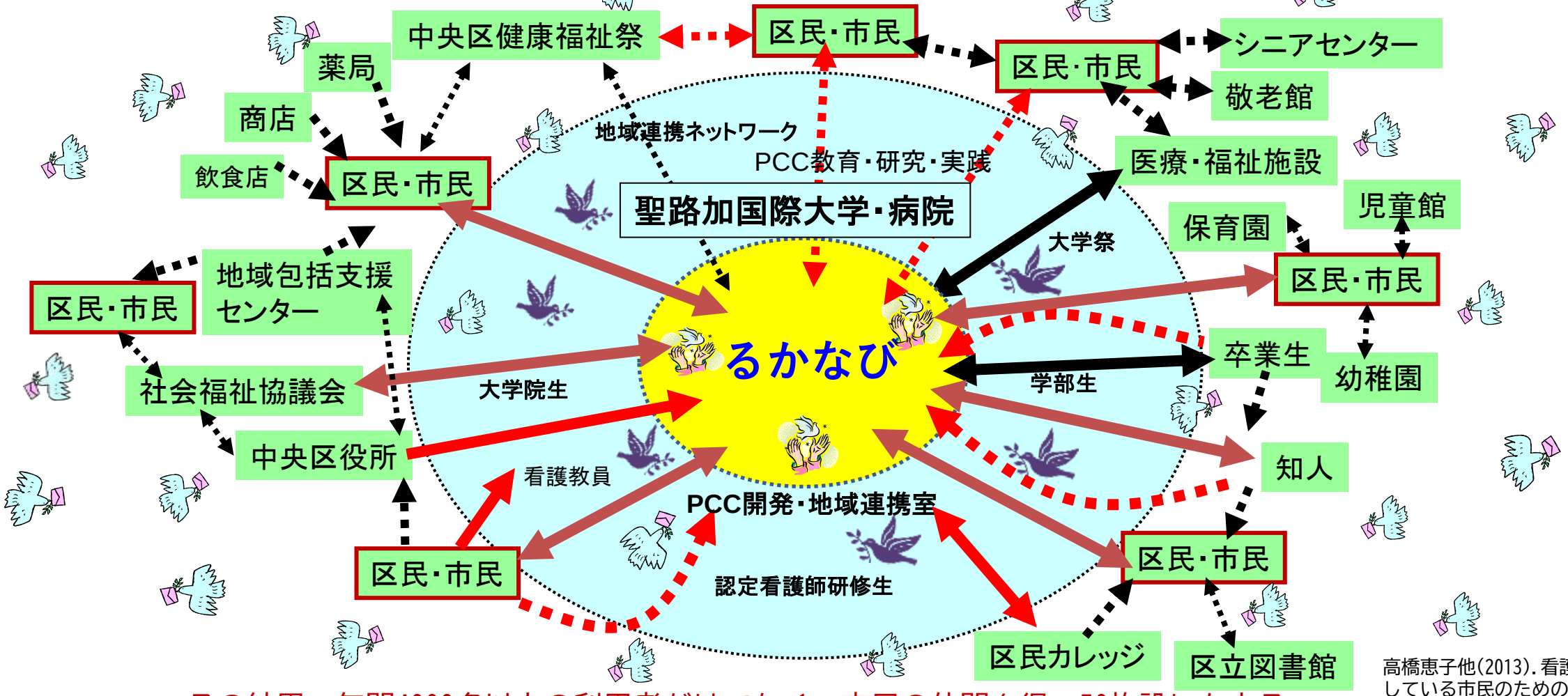
開設7年後：るかなびと市民・地域とのつながり（2011年度）



2007年より市民ボランティアが活動に参加。2011年には58名のボランティア登録があり、市民と協力して、広報活動とサービスを続けた。

St. Luke's International University

開設18年後：るかなびと市民・地域とのつながり（2022年現在）

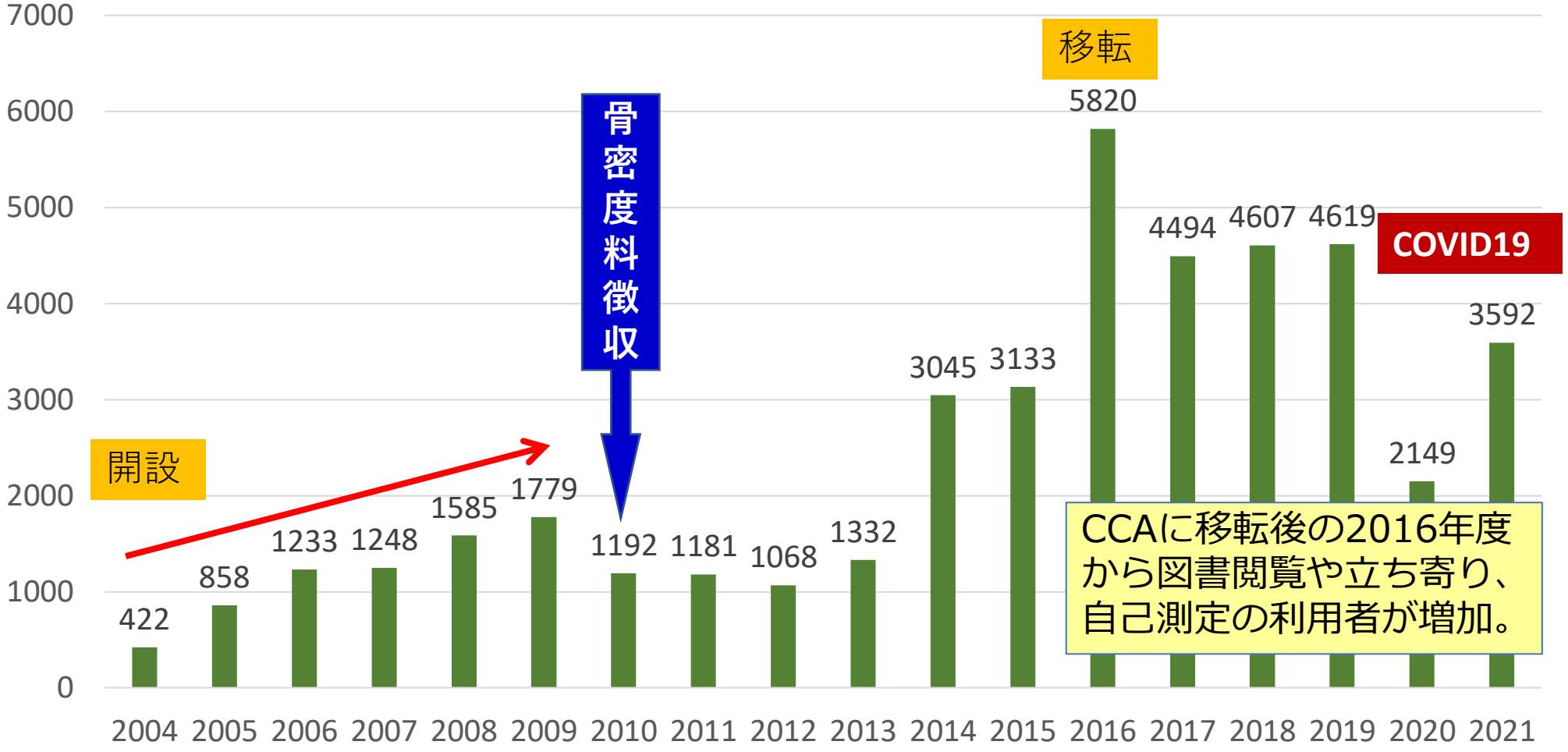


その結果、年間4000名以上の利用者だけでなく、市民の仲間を得、50施設にも上る協力施設との連携が築き上げられた。その成長過程を**伝書鳩モデル**とよんでいる。

高橋恵子他(2013).看護大学が開設している市民のための聖路加健康ナビスポット「るかなび」の活動評価,聖路加看護大学紀要, 39.47-55.

るかなびの年間利用者数の経年推移

年々利用者数が増加していたが、**2010年から**無料だった測定を骨密度測定のみ有料（500円）にしたところ、利用者が半減。図書閲覧や立ち話の相談は引き続き多く、**2016年度**の聖路加臨床学術センターへの移転後、利用者が増加。



大学・中央区連携・協働モデル案

2023.3

学生の教育活動の場としての「るかなび」

■People-Centered Careを学習する場として
学生**224名**がるかなびを活用(2021年度)

1）学部生・大学院生の演習・実習の場
2）大学院生の研究フィールド
3）認定看護師課程の受講生の実習の場

・ボランティア活動の場
・健康チェック、健康相談実践
・健康講座の企画・運営
・闘病記の利用

教員の看護実践の場としての「るかなび」

＜専門領域における看護相談＞

- 相談対応　聖路加国際大学教職員、認定・専門看護師等　20名
- 日時　平日10時～16時　1回60分程度　要予約
- 料金　1回1,000円（税込　保険診療適応外）
- 相談内容　がん、慢性疾患、脳卒中後遺症や再発予防、息切れ・呼吸リハビリ、中皮腫・アスベストの心配、便秘、急な病気やケガ、手術、女性のからだの悩み、認知症、在宅療養・介護、子どもの発達・病気や障がい、遺伝、こころの悩み、睡眠、意思決定、死別の悲嘆など
- 昨年の実績　41件（2022年度11月末　33件）

PCC実践の場として地域とつながる「るかなび」

■PCC事業や区との連携事業を実践する**「場（スペース）」**としてるかなびを活用

・せいるか・オレンジ・カフェ（認知症疾患医療センター相談・支援センター）
・おとなりカフェ・ちょこっと相談会 IN るかなび（中央区社会福祉協議会）など

■PCCを地域に届ける**「出張るかなび」**

・いきいき地域サロンや敬老館などで市民のニーズに合わせた健康講座の実施
・中央区多世代交流スペースでからだのお話会の開催　など

「るかなび」の強みと今後の課題

People Centered Care

強みとしては・・・

- PCCという理念が明確であり、当初から実践開発研究の循環を意識してスタートした
- 市民主導の健康生成を目指して市民や多職種と協働して運営を行ってきた
- 粘り強い広報活動や連携に向けたアクション、サービス活動を継続した
- 聖路加健康ナビスポット「るかなび」という市民に開かれた「場」、PCC実践が可能な「拠点」がある
- 人的資源として看護師・事務員が常駐し、教員も学生も様々な形で利用している
- 「るかなび」にPCC開発・地域連携室がありPCC事業を把握・統括している
- 大学も病院もPCCを基盤にして教育・実践・研究を行っている

課題としては・・・

- コロナ禍で縮小している市民・当事者との協働の推進、より多くの人に利用してもらえるよう地域住民への広報の工夫、継続的な評価に基づくサービス活動が必要である